第三者意見

国立大学法人 千葉大学
総合安全衛生管理機構　環境安全部長
大学院工学研究院　共生応用化学コース

教授　町田 基氏

現在，私は千葉大学で環境・工学の教育，水質浄化の研究，全学の化学物質管理や有害廃棄物処理関連の運営業務に携わっています。2016年に引きつづき再び外部監査委員にご指名いただき，この度さらに進化した2018年版を拝見させていただきました。折角の機会ですので2016～2017年版も今一度通読いたしました。2018年版も東工大としての環境への取り組みが網羅的であり，ますます広範囲に拡大・充実した内容になっていると感じました。環境報告書作成ワーキンググループの原案立案から取材，全体の構成・アレンジなどキャンパスマネジメント本部の常日頃の努力の賜と思います。

先ず，基本理念と基本方針では「環境問題を人類・生命の存亡に係る地球規模の課題で，未来世代とともに地球環境を共有する」と謳われており，時空の大きく拡がった俯瞰的な観点から理念と方針が定められています。具体的活動項目についても研究・教育および社会貢献のいずれの分野をとってみても環境汚染防止や廃棄物削減といった卑近な課題だけでなく，省資源・省エネルギーや広く環境負荷低減を考慮した活動が展開されている様子が読み取れます。現在の環境問題は身近なゴミや廃棄物の問題から温暖化による気候変動や化学物質による海洋汚染といった地球規模の問題に到るまでいわゆる重層的構造をなしていますが，環境教育や環境負荷を低減するための最先端の研究はもちろんのこと，学生自らアカデミックなキャンパスから飛び出して自主的に街に繰り出し路上のゴミを収集する環境ボランティアや大学周辺の地域の花壇整備も紹介されており，実践的リーダーを輩出しつづける東工大ならではの活動が環境保全面でも感じられます。このような実地の活動を通じて優秀な学生諸君がプラスチックゴミの分別収集の是非（リサイクル再利用か？焼却場での廃棄物発電に積極的に利用するか？など）あるいはマイクロプラスチック汚染や食品ロスの問題などに注目するようになっていくことが大いに期待されます。また，実社会では環境保全活動が高度化するにつれ環境汚染と対策費用の問題などにつきあたることが多いと思いますが，この環境報告書でも社会科学的な観点からの教育（講義）でこのような汚染と費用といったジレンマの問題も採り上げられておりとても興味深く拝読させていただきました。また，化学物質，電気，ガス，水といった研究・教育活動に必須で削減がなかなか困難な項目についても様々な創意工夫で具体的に数値を下げられています。

最後に私が日頃感じている大学における構成員の環境保全に関する意識についてふれたいと思います。千葉大では学生による環境ISO委員会が組織的に全学の環境活動を推進していますが2017年4月に学生と教職員を対象に３Rに対する意識調査を行いました。1,200人余りの回答を集計した結果「普段からなるべくゴミをださない，ゴミのリユース，リサイクルを意識しているか？」の問いに対して「いつも意識している」との回答が学生で20%，教職員で57%でした。学生諸君は経験や知識も未だ十分でないため20%という数字は当然の比率かもしれませんが，東工大を含めて他の大学も大同小異ではないかと想像しています。これからの地球環境の保全や持続可能な社会といったものを実現していくためには，環境報告書に登場するような一部の意識の高い若者だけでは前進しません。大学のような高等教育機関で学ぶ学生諸君一人ひとりの環境マインドがさらに広まり深まるように日々の教育・研究・運営活動の中で私自身も努力してまいりたいと思いますが，東工大のように社会を先導する実践的リーダーを輩出しつづける大学においては，教職員や大学院生をはじめとした大学の構成員に対する社会からの要求や期待はなおさら大きいのではないかと思います。

7月26日千葉大学で実施した外部監査の様子